

第1回 総合リハビリテーションセンター病院部門  
在り方検討委員会 概要

**開催概要**

日 時：令和3年5月27日（木）18：00～19：45

会 場：埼玉県県民健康センター3階 中会議室（WEB 併用）

出席者：朝日委員、石井委員、金井委員、清水委員、田崎委員、田中委員、廣澤委員、  
藤原委員、横田委員（敬省略 五十音順 全委員出席）

**議事概要**

1 福祉部長挨拶

2 委員長選出等

（1）委員長の選出

朝日委員について推薦があり、各委員の同意を得て委員長として選出した。

（2）会議の取扱い

各委員が忌憚なく意見の発表をすることができるよう、会議中、意見交換の部分については非公開の扱いとすることを決定した。

3 議 事

（1）日程等について

（2）主な論点について

（3）総合リハビリテーションセンターの現状と課題について

（4）総合リハビリテーションセンターが提供している医療と果たしている役割について

## 【委員の主な発言要旨】

### ＜総合リハビリテーションセンター病院部門が担うべき政策的な医療・役割等について＞

- ・ 県立病院として担うべき役割が何か重要。人工股関節置換術などは、以前は先進的であったが今はそうではない。民間に任せるのはどの分野かを見定めるのが本委員会の役割である。
- ・ 政策的医療とは言え、財源確保が必要である。民間に任せられるものは任せないといけない。政策的医療であっても費用対効果を検討しないと経営形態の検討には繋がらない。
- ・ 神経難病は、DBSなどニューロモデュレーションの治療によりめざましく改善する。アルツハイマーや筋萎縮性側索硬化症など、治らないとされていた神経難病が治る病気になってきており、今後重要な分野となる。センターは公立病院として神経難病の分野でDBSなど、県民に特別な医療を提供できている。
- ・ 整形外科については一般病院でも対応してきており、センターが県立病院として整形外科を継続するのであれば合併症に対応できるかどうか求められる。
- ・ 精神疾患からの自殺企図者に対するリハビリに需要がある。
- ・ センターには経験豊富で優れたセラピストが多数いるので、指導的な役割が必要である。

### ＜新たな感染症対策や頻発する大規模災害への対応で果たすべき役割について＞

- ・ 新型コロナへの対応におけるセンターの功績は大きい。対応能力が高いと感じた。柔軟な対応能力に存在価値がある。また災害時の障害者の避難対応は重要度が高まってきており、センターに求められる役割はますます大きくなる。
- ・ センターが新型コロナの対応をしっかりとやっていることは評価したい。
- ・ 災害時、近々に重要となるのは補装具を提供できる体制である。

以上